厚生労働科学研究費補助金
分担研究報告書

外来化学療法中の患者支援体制に関する検討～医師の立場から～

研究分担者　扇田信　　聖路加国際病院　腫瘍内科

研究要旨
聖路加国際病院オンコロジーセンターにおいて行われている外来化学療法に従事している医師21名を対象として、外来化学療法中の患者支援体制に関するアンケート調査を行った。外来化学療法中の患者から、医師に連絡をとる手段としては、電話15名(71%)、電話とメールの併用4名(19%)であり、電話対応が主となっていることが確認された。電話対応では、発熱などの体調に関する相談が多く、電話対応のみで終了する場合も多いが、定期外受診や往診医へ往診依頼、近医受診を要すると判断される場合も多く、緊急から準緊急の対応を要すると考えられる頻度は多かった。電子メールでの対応も、相談内容としては体調が最多ではあったが、緊急受診を要する頻度は少なく、また、通院・予約についてなど緊急性を要しないと考えられる内容が同程度多くなっていた。定期受診日に、自宅で対応に苦慮し医師に相談したかった事象についての相談を受けることも多く、相談内容としては、体調、特に発熱と疼痛についてが多いことが明らかになった。その中には、対応に苦慮したその時点で病院に連絡をして判断を仰いだ方が良かったと考えられる事例も一定数含まれており、特に、内容としては体調や服薬に関するものであった。外来化学療法中の患者の緊急入院はそれなりの頻度で起こると考えられ、緊急入院の理由としても発熱が最多であった。緊急時の連絡方法を統一化することや、予想される症状や対処法をパンフレットやホームページに提示し、きめ細かく指導すること、受診を要する患者の受診判断ツールの開発することなど、外来化学療法中の患者の自己管理の支援体制をさらに整備していく必要性が考えられた。また、電子メールなどのツールについては、個人情報管理の問題も含めた体制の整備が必要と考えられた。

A．研究目的

外来化学療法では離院後何らかの問題が生じた場合、患者は自ら症状を判断して行動することが求められる。医療機関側には患者の自己管理を支える仕組みの構築が必要となる。しかし、当院の現状では、各診療科や担当医師により患者対応や患者教育内容も統一されておらず、患者の自己管理支援体制は十分に確立しているとは言えない。そこで、聖路加国際病院において外来通院で抗がん剤治療を行う患者に対する医師の立場からの支援体制の現状を把握し、対応の問題点を明らかとするために、外来化学療法を行う医師に横断的観察研究として、アンケート調査を行った。

B．研究方法

聖路加国際病院オンコロジーセンターにおいて行われている外来化学療法に従事している医師を対象として、横断的観察研究として2013年2月の1か月間にアンケート調査を施行した。対象選択基準は(1) 聖路加国際病院オンコロジーセンターにおいて行われている外来化学療法に従事している医師（外来化学療法を行う患者の担当医）。(2)口頭による同意が得られている。(3)日本語で記載された質問紙を読むことができる。とした。

選択基準を満たす医療従事者に対しては、口頭で同意を得たうえで、アンケート用紙を渡し、医療従事者はアンケート用紙の提出を持って同意とした。

＜倫理面への配慮＞

アンケート用紙には、個人名は記載せず、診療科、性別、年齢（年代）のみの記載とした。また、結果は研究目的以外に使用することはない。臨床研究計画書を作成し、当院の臨床倫理審査委員会の承認を得て実施した。

C．研究結果、進捗状況

計21名の医師からアンケートに対する回答を得た。男性10名、女性10名、年齢は30代が13名で最も多く、次いで40代4名、20代3名、未記入1名と、中堅と考えられる医師からの回答が主であった。診療科は、乳腺外科8名、腫瘍内科5名、呼吸器内科2名、血液腫瘍科3名、未記入3名であった。

外来化学療法中の患者から、医師に連絡をとる手段としては、電話15名(71%)、電話とメールの併用4名(19%)であり、電話対応が主となっていることが確認された。連絡があった患者の割合は30%未満が16名（76%）であり、多くの患者は受診時以外には医師に連絡を取っていないと考えられた。患者からの電話問い合わせは19名（90%）の医師が経験している。頻度としては週1回が9名（43%）と最多であったが、連日、さらには連日2回以上の電話対応をしている医師も各1名(5%)認められた。相談内容は、体調に関してが18名(86%)と最も多く、次いで服薬（7名:33%）に関してであった。通院・予約に関してなど事務的な相談内容も6名(29%)と比較的多い結果であった。受診相談405件（37%）、内服相談87件（8%）であった。電話相談に関しては、電話対応のみで終了する場合も多いが、翌日以降の定期外受診や往診医へ往診依頼、近医受診を要すると判断される場合も多く、緊急から準緊急の対応を要すると考えられる場合も多いことが考えられた。

電子メールで患者からの問い合わせに対応しているのは8名(38%)の医師であった。頻度は多くなく、月1回程度が最多であった。相談内容としては、体調が最多(6名:75%)ではあったが、通院・予約についてなど緊急性を要しないと考えられる内容が同程度多くなっていた(6名:75%)。対応としては、電子メールでの対応が多く、受診を要する場合でも翌日以降の受診が主であり、同日の受診や往診を要した頻度は少ない結果であった。メールで対応に苦慮した点に関しての自由記載では「微妙なニュアンスを伝えづらい」「電子メールでどこまでこたえるか判断が難しい」「返信がない」などの問題が明らかとなった。

外来化学療法中の患者の定期受診日以外の受診を経験した医師は19名（90%）と多く、頻度としては週に1回程度が多かった。受診理由としては、体調に関することが多く、その中でも発熱が最多であった困難。ついで、嘔気・嘔吐、疼痛、食欲不振、呼吸、皮膚症状、全身倦怠感、下痢などであった。

外来化学療法中の患者の緊急入院を経験した医師も 14 名（67%）と多く、緊急入院の理由としても発熱が最多であった。ついで、食欲不振、呼吸困難、全身倦怠感、嘔気・嘔吐、下痢、疼痛などであった。
定期受診日に、自宅で対応に苦慮し医師に相談したかった事象についての相談を受けることも多く、相談内容としては、体調、特に発熱と疼痛についてが多いことが明らかになった。それ以外では、服薬や食事について判断に迷ったという相談が多い結果であった。その中には、対応に苦慮したその時点で病院に連絡をして判断を仰いだ方が良かったと考えられる事例も一定数含まれており、特に、内容としては体調や服薬に関するものであった。具体例としては、発熱を放置して重症化した例や、転倒後放置して外傷が悪化した例、嘔気による内服自己中断などがあげられた。
その他自由記載では「診療科や担当医師により、患者への対応が異なっている可能性がある」「担当医に電話がつながりにくいなどの問題があり、外来化学療法中の患者の病院への連絡方法を統一化し、緊急度の把握などができればとても有用と考える」「時間外に化学療法の専門外の医療者が対応していることがあるのは問題」「医師以外が対応したことが医師に伝わっていないことがある」などの問題と問題提起がなされていた。

D．考察

アンケート調査の結果より、担当医師により対応が異なっていることが考えられた。例えば、「外来化学療法中の患者に離院後に何らかの問題が生じた場合にすぐに担当医に電話連絡をするようにと伝えている場合と伝えていない場合」「電子メールでの問い合わせを可として、メールアドレスを患者に伝えている場合と伝えていない場合」「症状に対する対処法が支持され、頓用薬が処方されている場合と処方されていない場合」など様々な状況が考えられる。病院として可能な限り統一した方法を検討していくことが必要と考えられた。
その一つとして、連絡方法を統一化し、対応した医療従事者が緊急度を判断して対応を振り分けることが考えられる。当院では現在、腫瘍内科のみ、電話相談専用の PHS を看護師が携帯し、直接患者からの電話をうけることができるようになっている。この方法を全診療科に拡大していくのも一法であろう。
また、疾患や使用したレジメン、全身状態などにより、個別化した対応が必要な場合もあるが、予想される症状や対処法をパンフレットやホームページに提示し、きめ細かく指導する事で電話相談をせず自己管理ができる可能性が考えられる。また電話相談や受診を要する患者の受診判断ツールの開発の有用性も示唆される。
電子メールは、患者対応のためのツールとしての有用性が示唆されるが、常にその場での対応が可能ではないため緊急度の高い場合での利用には向かないなどの限界を理解していただく必要があることや、個人情報管理の問題などから、今後、幅広く利用していくためには、体制の整備が必要と考えられた。

E． 研究発表

1)国内

1.論文発表

該当なし

2.学会発表

該当なし

2)海外

1.論文発表

Ogita S, Tejwani S, Heilbrun L, Fontana J, Heath E, Freeman S, Smith D, Baranowski K, Vaishampayan U. Pilot Phase II Trial of Bevacizumab Monotherapy in Nonmetastatic Castrate-Resistant Prostate Cancer. ISRN Oncol. 2012;2012:242850.

2.学会発表

該当なし

Ｆ．知的財産権の出願・登録状況

該当なし